

# 勝央町スポーツ・文化活動地域展開協議会

作成日： 2026年5月1日

作成者： 勝央町教育委員会

会議名称	令和8年度第1回勝央町スポーツ・文化活動地域展開協議会
開催日時	2026年4月30日（木曜日） 19:00 ~ 21:00
出席者 （敬称略）	石原悦子（勝央町スポーツ協会）、北池龍一（勝央町健康スポーツクラブ）、植月重幸（勝央町スポーツ少年団）、河上理枝（勝央町文化協会）、谷口浩子（勝央町社会教育委員会）、中村安奈（勝央町教育委員会）、國政敏明（公益財団法人金太郎スポーツ振興財団）、本行才泰（勝央町PTA連合会）、井上高志（一般社団法人しょうおう志援協会）、浦島毅（勝央中学校）、下山静之（勝央町議会） 事務局：勝央町教育委員会5名

## 協議内容（総括）▼

本会議では、学校部活動の地域展開に関する基本方針案と地域クラブ活動のガイドライン案が提示され、長期的な運営目標や実施方法、課題の整理などが議論されました。主要な目的は、生徒数減少や教員負担軽減を背景に、中学生部活動を地域クラブ活動へと円滑に移行させるための制度設計と方向性の共有にあります。勝央町の地域展開は、中学生だけでなく、小学生から一般町民まで多世代の交流を目指しており、今後、町内全体としてのスポーツ・文化活動を活性化させるための重要な会議となりました。委員からの意見や報告が活発に行われ、各種課題についても次回以降への検討材料が見つけれられました。以下に主要な議題ごとに整理した要約を記載します。

## 地域展開の必要性と基本方針案▼

地域展開が必要となる理由として、生徒数減少による部活動の継続困難、教員の長時間労働の解消が挙げられました。特に、今後のスケジュールとして令和8年9月から休日の部活動廃止、令和9年度4月から部活動の全面廃止の情報が共有されました。

これに伴い、中学生の部活動を地域クラブ活動として発足させることが急務となり、子どもたちの居場所を確保することが目的となります。

活動主体は、町教育委員会が認定する地域クラブが主導し、運営方法や指導者資格などの条件が細かく紹介されました。また、多世代交流の場として地域住民全体で支える仕組みが大きな目標として掲げられました。

## 地域クラブ活動ガイドライン案の提示▼

ガイドライン案では、地域クラブが認定されるための詳細な要件が示されました。

例えば、運営規約の策定、休養日の設定、適切な指導者の配置、安全管理体制と保険加入などの具体的な条件が記載されています。特に指導者については、コミュニケーションやハラスメント防止の研修を受ける必要があることや、過去の行為において適切性が問われることが強調されました。

地域クラブは競技力強化を目的とするものではなく、中学生や地域住民が広く参加しやすい環境作りを重視しています。ただし、競技性の強いスポーツに関しては、特に中体連への登録時に専門指導者の資格要件が求められるなど一定の要件についても共有されました。

## サッカー少年団モデル団体の承認▼

本会議では、サッカー少年団が「地域移行準備モデル団体」として認定されました。

同少年団は、既に平日を中心に活動を始めており、部活動指導員や顧問教員が無償のボランティアとして指導に当たっています。教育委員会は、場所確保を含む支援を提供する方針を表明しました。他のスポーツ団体や活動に対しても、適切な条件のもと、同様の制度設計（各種支援）が行われる方針が確認されています。

## 委員からの意見や課題提案▼

委員会では、複数の意見が挙げられました。例えば、広域からの参加者に関して、競技力強化につながる勧誘や選手の優遇は認められないものの、自発的な参加は可能であるとの解釈が確認されました。

また、小学生や保護者の情報不足に対する対策も議論され、チラシや保護者連絡用アプリを活用した広報が求められました。さらに、口座開設のハードルについても懸念が示され、事務局側が条件整備を検討することとなりました。

## 今後のスケジュールについて▼

本会議では、今後のスケジュールとして5月、6月、7月と1か月に1回程度のペースで次回以降の会議が設定されました。また、7月には一般向け説明会の開催が予定されており、広報を通じて町民や保護者への周知を図る動きが明示されました。今後の活動内容と進捗が共有されることで、制度設計の透明性が保たれる予定です。

- ・ 5月28日（木） 19：00～ 第2回開催 ガイドライン等策定
- ・ 6月26日（金） 19：00～ 第3回開催 各種課題洗い出し・整理等
- ・ 7月7日（火） 19：00～ 一般向け説明会@勝央町公民館
- ・ 7月22日（水） 19：00～ 第4回開催 今後のスケジュール等共有

## その他の議論と閉会▼

最後に委員から、町民の不安や疑問に対する説明不足を解消する方法について意見が交わされました。また、制度設計が進む中で、部活動そのものが持つ魅力をいかに地域展開の形で維持していけるかも引き続き重要な論点とされました。閉会にあたり、議長からは今後の協議会でも引き続き活発な意見交換を求める要請がありました。